

研修並びに行政視察報告

(会派 令和クラブ)

<研修・視察目的>

・地方議員研究会研修会

財政状況も厳しい中、規模縮小と建て替えの方向性を示している安来市立病院の建設にあたって、いかに安く建設するかを研究し、参考にするため。

・埼玉県東松山市

公共交通機関空白区域の移動手段の確保は安来市でも大きな課題。これを解決するため調査・研究し、参考にするため。

<視察概要一覧>

研修・視察 月日	研修・視察先	研修・視察施設	研修・視察内容
1月23日 (木)	地方議員研究会 研修会	TKP 東京駅八重洲 カンファレンスセンター	・わがまちの病院をいかに安く建築するか？
1月24日 (金)	埼玉県東松山市	東松山市役所	・デマンドタクシーについて

<研修・視察概要報告>

1. 地方議員研究会研修会

●講師： 城西大学経営学部 教授 伊関友伸氏

●説明概要：

・「わがまちの病院をいかに安く建築するか？」

〈概要〉

総務省や内閣府の公立病院に関する検討会や研究会で委員を務めておられる伊関教授は、冒頭「建物の借金返済が問題」、「ボロのままだと若い医師や女性医師は来ない」、「責任者の能力次第、人物が1番」などのポイントを述べられ、その後失敗や成功事例などを紹介しながら詳細に説明された。結論として病院新築は病院の「最大の危機」であるとのこと。財政の厳しい自治体では、病院を新築して、病院の経営が悪化した場合、財政支援をする余裕がなく、すぐに病院の存続の問題になる。病院新築はぎりぎりの選択であって、進むも地獄退くも地獄の状況を認識して進むべき。とにかく従来の考え方にとらわれず、従来の官庁発注の考え方も見直し、シンプルで建設しやすい設計がローコスト建築（1床3500万円程度）に繋がると話され、徹底的にローコストで質の高い病院建築を考えることが必要だと結ばれた。

<考 察>

○金山 満輝

自治体病院を新築するため場合のポイントを学ぶ

1) 企業債借入を最小限にするためには、

- イ) 手持ち現金を減らさないためには、企業債の借入を最小限にすること。
- ロ) 病院統合再編による医療介護総合確保基金、過疎債、合併特例債などを組み合わせる。
- ハ) 病院の統合再編により企業債償還の交付税措置率を高める。

2) 建築コストを最小限にするためには、

- イ) 建物の建築コストを最小限にし、できるだけ企業債の借入を最小限にする。
- ロ) できるだけシンプルでコンパクトな設計にする。

安来市でも自治体病院を新築することを行おうとすれば、基本は医師や看護師などの医療スタッフが借金返済することに。シンプル、コンパクト、極力企業債を最小限に抑えるべきと実感した。

○遠藤 孝

病院新築をする場合のポイント

- ・手持ち現金をショートさせない。(企業債借り入れを最小限にする、建築コストを抑制する)
- ・できるだけシンプルでコンパクトな設計にする。
- ・どうすればローコストで質の高い病院建設ができるか考えなければならない。
- ・1病床当たり 3000 万円台にすることが肝要である。

とても示唆に富んだ内容の研修であった。

○中村 健二

東日本大震災、東京オリンピックの建設需要の影響を受けて病院建設費は増加の傾向にあり、建設業者の指名競争入札が不調になる例が相次いでいる。

他にも、首都圏を中心に再開発によるオフィスビルや商業施設の建設需要。地震や豪雨などの自然災害が相次いだ。全国的な人手不足による労務費の高騰、高力ボルト等の建築資材の不足や高騰等が原因と説明された。

その中で、病院新築のポイントとして、①手持ち現金をショートさせない②企業債借入を最小限にする③建築コストを抑制することを上げられた。

具体例としてヘリポートの見直しを行い、建物のコスト減に。投資金額の範囲内で、病院が望まれる機能は何か、病棟構成を絞り込む事が必要。

また、設計士の人となりを選び、一緒に仕事をしたい、能力があって人柄の良い設計士をいかに選ぶかがポイントと説明された。

現場調査を踏まえた意見として、現地建て替えは高くなり、新たな更地に建設したほうが安い建築費に抑えられるとのこと。さまざまな手法を勉強させていただき、安来市

立病院にも大いに参考となった。

○作野 幸憲

テレビなどでもよく拝見する伊関教授の講演は以前より興味がありました。話の中で印象に残ったのは、「人任せにしない」こと。病院職員や議会・地域住民も病院建築について「人任せ」にせず勉強し、出来る努力をすることが必要と言われたこと。また発注方法一つとっても「従来の考えにとらわれない」こと。

現在安来市では、市立病院を規模縮小し、建て替えすることが検討されています。最終的にその方針で進められることになれば、財政が厳しい中での新築となりますので、今日伺った話を参考に、徹底したローコストで質の高い病院建築を目指さなければなりません。

2. 埼玉県東松山市

●対応部署： 東松山市議会議長ほか議会事務局、市民生活部地域支援課職員 3 名

●説明概要：

・「デマンドタクシーについて」

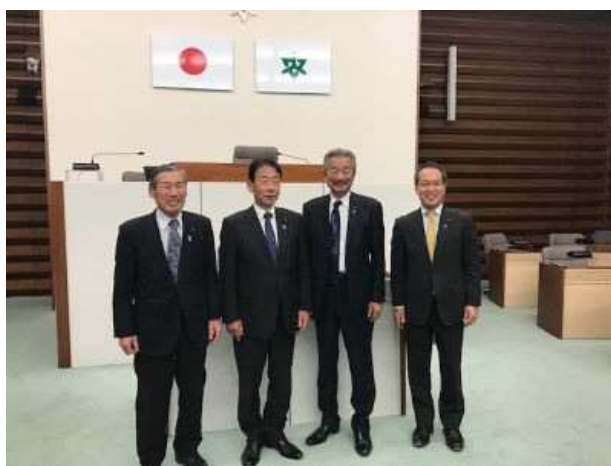
〈概要〉

東松山市では、市内の公共交通機関の空白区域における移動手段を確保し、利用者の利便性の向上を図ることを目的に、平成 27 年 12 月から『東松山市デマンドタクシー』事業を行っておられます。利用するには登録が必要。現在登録者数は 2 万人（人口約 9 万 2 0 0 0 人）を超え、利用件数も年間約 9 万 8 0 0 0 件（平成 30 年度）となっています。登録者の年代を見ると 6 0 歳以上が多く、高齢者等の交通事故防止、健康増進に一定の効果があったとのことでした。その一方でタクシー運賃補助方式を採用しているため、利用増加に伴い補助額（公費負担：特別交付税の対象外）が増加し、平成 3 0 年度では約 8 7 0 0 万円余となっていて、メーター料金に応じた利用料金の設定の見直しも今後の課題になってくるとのことでした。

○金山 満輝

安来市には JR 安来駅、JR 荒島駅間の横移動、路線バス、市内循環バス、途中下車しやすいタクシーなどがあるわけだが、市民の足を十分にカバーできているかと言えば、市民の乗降をすべてカバーしきれていない面も多々ある。

今回は東松山市の先進的な取り組み「デマンドタクシー事業」に注目した。



(東松山市役所議場にて)

東松山市は、総面積 65.35 km²（安来市は 420.93 km²）、東西 11 km 南北 14 km（安来市は南北でも 23 km）人口密度は安来市の約 14 倍に相当する。

デマンドタクシー事業は、東松山市では成功した先進的な取り組みではあるが、安来市で南北移動にタクシーを移動手段にすれば、利用料金 1 万円近くかかり、財政的に利用料金の一部を支援できるかと考えれば、安来市でこうした事業は難しいかなと感じた。

○遠藤 孝

東松山市においては、民間バス路線事業の撤退に伴い市内循環バスを導入したが、広い範囲を結ぶことが可能な一方、所用時間が長く利便性は低く、利用者の低迷が続き代替え手段として「デマンドタクシー事業」が導入された。

平成 27 年度から本格運行が開始され現在に至っている。非常に市民の要望が多くなり公費負担が増え、財政に負担となってきた。公共交通空白地域の解消と利便性向上という成果は大であると理解したが、いざ安来市に当てはめて考えると中山間地域の広い当市ではむつかしいことだと思われる。

○中村 健二

東松山市内の公共交通機関の空白区域における移動手段を確保し、利用者の利便性の向上を図る事を目的に、平成 27 年 12 月から「東松山市デマンドタクシー」が実施された。車の運転が出来ない方、高齢のため運転免許の自主返納を考えている方には有効な制度と感じた。

約 65 平方キロメートルの面積であり実現が可能であると思います。現実問題として、約 420 平方キロメートルの安来市では、タクシーの台数、運転手の確保等々問題点があると感じた。今回の視察で感じた事は、それぞれの地域事情を考えながら最善の方向性を考える事が必要と感じた。

○作野 幸憲

通院、買い物などの日常生活に不可欠な身近な公共交通をどうするかは、安来市でも喫緊の課題で、今回デマンドタクシーという先進的な取り組みで成果をあげておられる東松山市を訪問することを楽しみにしていました。まず驚いたのは登録者数と利用件数の多さ。車を運転できない人や高齢者で運転免許の返納を考えている方にとっては既になくってはならない公共交通となっていた。

私が以前から興味があったのは路線バスとの連携。しかしながらデマンドタクシーの安さと便利さが災いし、タクシーからバスへ乗り継ぐ方はごく少ないということでした。安来市においてこのようなデマンドタクシーをすぐに導入することは、タクシーの数や公費負担を考えると難しいとは思いますが、この事業の一部を採用して中山間地域などでのモデル事業として取り組むことはできるのではないかと思います。

以上